



目標6:安全な水とトイレを世界中に

目標17パートナーシップで目標を達成しよう



「世界一清潔な空港」として国際ランキング 1 位を独走する羽田空港。その立役者・カリスマ清掃員で、且つ、社内 500 名いる社員の中で唯一の環境マイスターの称号をもつ新津春子さんを城工生のみんなに是非とも知ってもらいたいと考え、今号で紹介し

ます。(毎日新聞 2023/9/19 記載)

彼女は、父が中国残留孤児、その残留孤児 2 世として 1970 年に中国瀋陽で生を受ける。小学校では「日本人」だといじめを受ける。その後、家族と共に 17 歳で来日。1 週間後にお金が底をつき、生活の為に言葉がわからなくてもできる清掃業につく。働きながら 18 歳で高校に入学するが、日本語が理解できずに女生徒から仲間はずれに、職場では「中国人」と差別された。そんな辛い現実でも、差別やいじめをばねとして仕事に打ち込み、その結果、27 歳で出場した全国ビルクリーニング技能競技会で優勝。予選では 2 位となり、上司から「今の貴方にはやさしさが足りない、道具を作った人の気持ちを考えて」指摘されたが、その言葉の意味が直ぐには理解が出来ず苦悩。全国大会までの数か月間、ひたすら道具や周りの人に対して、丁寧に大事に接し、感謝する気持ちを持ち続けてトレーニング繰り返し、その真の意味を体得できたことが優勝につながったと仰っています。その後は更に清掃の仕事に真心を込めるようになられたとか。この記事を読み、職人の生きざまを垣間見た気がしました。苦手なこと、嫌な難しい局面にであっても、あきらめることなく、自分を信じて努力し、頑張ることが、最後には成功を手にする事が出来るのではないかと感じてきました。



☆ 清掃はやさしさ ☆

右の本は、2016 年の出版された新津春子さんの著書です。生い立ちから中国での生活、来日後の苦労や、日本一の清掃員になるまでの紆余曲折の物語です。

読み進めていくうちに、とても心が熱くなりました。人生の応援歌、道しるべになる本だと思います。みなさんも、是非、手に取って読んでみてください！



あきらめない心には一筋の光が

新津春子さんは、境遇が悪い中でも、自分に負けず、最後まであきらめずにやり遂げ、32 年以上もカリスマ清掃員として活躍されています。

壁に直面しても投げ出すことなく苦難を乗り越え、真摯に問題に取り組み、そしてなりよりも「最後まであきらめないこと」で、一筋の光がさして彼女の努力が報われたのではないかと感じました。世の中は、不条理で理不尽なことだらけ。コツコツと「努力」をし、自分を律することが、周りの人から信頼を得られ、愛のある助言や、手を差し伸べてもらえるのではないかと。「最後まであきらめないこと」は、そう簡単ではないかもしれません。

が、いつか必ず光が差し、人生で、大きななにかを手にするのだと、彼女の生き方から学んだ気がします。

文責:副部長 M2-2 N.Y